

CASBEE京都-新築(2011年版)
真宗教化センター

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境										3.5
1 音環境										3.0
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル						3.0	0.40			
2 遮音						3.0	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.60			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境										3.7
2.1 室温制御										
1 室温						3.8	0.50			
2 外気温度						3.0	0.38			
3 外皮性能						5.0	0.25			
4 ゾーン別制御性						4.0	0.38			
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式						3.0	0.20			
事務室・研究室に床吹出空調を採用						4.0	0.30			
3 光・視環境										3.5
3.1 昼光利用										
1 昼光率				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.30			
2 方位別開口						3.0	0.60			
3 昼光利用設備				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40			
3.2 グレア対策										
1 グレア対策						3.0	0.30			
2 昼光制御				●自然	B(推奨内容)	3.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15			
3.4 照明制御						5.0	0.25			
1作業単位で照明制御かつリモコン制御										
4 空気質環境										3.5
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質						4.0	0.50			
内装仕上材はF☆☆☆☆を採用						4.0	1.00			
4.2 換気										
1 換気量						3.0	0.30			
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33			
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視						3.0	0.20			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービス性能										3.0
1 機能性										2.8
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性						3.0	0.40			
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33			
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観				●とも	C(独自加点)	2.3	0.30			
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33			
3 内装計画				●とも	D(独自基準)	1.0	0.33			
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.30			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性										3.1
2.1 耐震・免震										
1 耐震性						3.1	0.31			
2 免震・制振性能						3.0	0.48			
3 耐震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)	3.3	0.33			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.23			
4 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09			
5 空調換気ダクトの更新必要間隔						5.0	0.08			
6 空調・給排水配管の更新必要間隔						4.0	0.15			
7 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23			
屋外ダクト:ガルバリウム、厨房排気ダクト:SUSを採用 すべて(C)以上の配管を使用										

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			3.2	0.19	耐震クラスA	-	
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	
	3	電気設備			3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法			4.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
	3 対応性・更新性					3.1		0.29	
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり			3.6	0.31	階高=3.8m	-	
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	4.0	0.60		-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.40			
3.3 設備の更新性					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.38			
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22			
	6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	2.6	
1 生物環境の保全と創出	●とも	A'(全国版準用)			1.0	0.30		1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	○	C(独自加点) D(独自基準)	景観法の認定を受けている		4.0	0.40		4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30		2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)	軒が深く、内部に中庭に面した地域に開放された展示スペースを設置。全面ガラスの外壁で防犯		4.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)			1.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.9	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	2.9	
1 建物の熱負荷抑制					2.0	0.30		2.0	
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20		3.5	
2.1 自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電設備の設置		4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					3.7	0.30		3.7	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=12.3%	3.0				
集合住宅の評価									
4 効率的運用					2.5	0.20		2.5	
4.1 モニタリング					2.0	0.50			
4.2 運用管理体制					3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	3.0	
1 水資源保護					3.4	0.15		3.4	
1.1 節水			自動水栓、省水型器具の採用		4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)			3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63		2.9	
2.1 材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)			3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)			3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22		3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1 消火剤					-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50			
3 冷媒					3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	2.9	
1 地球温暖化への配慮					3.3	0.33		3.3	
2 地域環境への配慮					2.4	0.33		2.4	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない		5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)			1.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.6	0.25			
1 雨水排水負荷低減					-	-			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.33			
3 交通負荷抑制					3.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33		3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1 騒音					3.0	1.00			
2 振動					-	-			
3 悪臭					-	-			
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制						-			
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			上部配光の外灯なし。広告物照明なし。		5.0	0.70			
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)			3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる